

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.48

平成19年9月13日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

インデント（4年生の授業から）

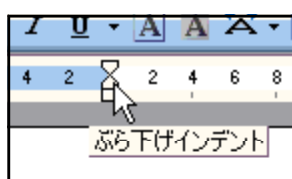
インデントを日本語で言うと、最も近いのは「字下げ」です。

字を下げる、これは、原稿用紙などで、段落のはじめに1文字空けることに相当します。

インデントは、段落ごとに設定できる、段落の属性（性質）です。

原稿用紙では、1文字「空け」ますが、パソコンでは、空けるのではなく、「書けない場所」として設定します。これがインデントです。

ワードの字下げには、段落の1行目、2行目以降、左端、右端の4種類があります。それぞれ、1行目のインデント、ぶら下げインデント、左インデント、右インデント、と言います。一太郎では更に、右端のインデントに、1行目、2行目以降が加わり、6種類となります。



←Word 2003
(行頭)
一太郎→
(行末)



インデントを「付ける」(文字を書ける範囲を設定する)には、文書のすぐ上にあるインデントマークを、マウスで移動させます。(上の図参照)

テキストボックスを考えてみます。テキストボックスの右端に文字列が届いたとき、その続きは自動的に次の行に送られます。次の行の初めの位置は、テキストボックスの左端です。テキストボックスの枠線を見えなくすると、文書の中であたかもこの枠線の位置にインデントが付いたように見えます。テキストボックスの外に文字がはみ出すことはありませんし、文字の数を変えても、両端はちゃんとテキストボックスの中に収まっています。文字を書ける位置が、テキストボックスの中にしかないからです。インデントというのは、こういう感じです。

レイアウトをスペース(空白)とエンターキー(強制改行)とで作っていると、文字数を変えたとき、改めてレイアウトし直すなくてはなりませんが、インデントを使えば、書いた文章の文字数が変わっても、レイアウトし直すことがないのです。挿し絵などを挿入するときも、たいへん楽です。是非、インデントを使ってみてください。